

令和3年度自己評価表

【中長期目標(学校ビジョン)】

岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

【今年度の重点目標】

- 1 「学力」＝「学ぶ力」の向上と進路実現
- 2 「人間性」の育成
- 3 地域と連携した学校づくりと魅力化

	具体項目	令和3年度当初			評価結果(2月)		
		現状及び課題	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 「学力」＝「学ぶ力」の向上と進路実現	基礎学力の向上	【現状】 ・生徒の基礎学力の向上感は約85%を超えており、取組の方向性に期待感が増してきている。 ・基礎力診断テストのD3ゾーンの生徒数が、1年生の国語以外は20%減を達成し、基礎学力の定着とそれのための学習への取組状況が一定程度改善されてきている。 【課題】 ・生徒が向上感を覚えている基礎学力が、高校学習水準に到達していないケースも散見される。	・生徒の学力の向上感が85%以上で、職員の向上感との差が25ポイント以内になっている。 ・1・2年生の基礎力診断テストにおいてD3ゾーンの生徒数が年度始めより20%以上減少している。	・各教科でのリスタート学習の取組を全体で共有して実施する。 ・基礎力診断テストにおいて事前事後の取組を行う。 ・授業アンケートの結果を踏まえて生徒の視点から学習指導を行う等の授業改善に取り組むとともに、学び方の指導も含めて生徒の主体的な学びを啓発する。	・学年と各教科が連携を図りながらリスタート学習の取組を行った。 ・基礎力診断テストの動機づけを図る等生徒対象の事前指導を行うとともに、テスト結果の活用に関する教員研修を実施した。 ・学校評価アンケート結果(12月)によると、生徒の基礎学力の向上感は90%を超え、保護者についても84%に達している。 ・1・2年生の基礎力診断テスト(12月)において、D3ゾーンの生徒数が年度始めから45%減少。目標を達成した。 ・生徒が主体的に取り組める授業づくり及び全国標準レベルの基礎学力定着については取組途上である。	B	・新学習指導要領に対応した中学校教科書や全国学力学習状況調査問題(中学校3年生)の出題内容を踏まえた上で、リスタート学習の取組を質的に向上させる。 ・教員対象の基礎力診断テストの分析検討会を結果返却から間を置かず開催する。 →個別指導、教科指導、学年指導で戦略的に活用し、生徒の具体的な目標設定や課題解決を支援する →保護者個別懇談時の資料としても有効活用する
	キャリア教育の推進	【現状】 ・ジオパーク学習(1年次)やイワッツミッション(2年次)等の地域探求学習及び各類型の特徴を生かしたキャリア形成支援企画等とおして、課題解決能力や自己理解支援を進めている。 【課題】 ・将来、社会人としてどのように活躍できるかについてのイメージが希薄である。 ・自分の興味・関心、適性や可能性等を見出せず、自らのキャリア形成を主体的に進められない生徒が多い。	・地域との活動をとおして様々な世代の人々と触れ合い、より広い世界に目を向けられるようになっていく。 ・生徒の90%以上が本校の教育方針を認識している。 ・進路実現に向けて行動を起こしている生徒が80%以上になっている。	・担任等による個人面談及び進路指導部面談等を充実させる。 →生徒が自分では認識できていないかもしれない可能性や特長に気づかせる。 ・キャリア・パスポートを活用する。 →講演会等での気づき等を言語化・可視化させることをとおして自分の興味・関心、適性等について考察させる。 →生徒の行動と実社会との関わりについて考察させ、より広い進路展望を拓かせる。	・学校評価アンケート結果(12月)によると、「本校教育方針を認識している」と回答した生徒は82.7%、「進路実現に向けて行動を起こしている」と回答した生徒は77%となっており、いずれも目標数値を若干下回っている状況にある。 ・次年度の類型選択検討期間だけでなく、学年でポイントとなる時期にも、担任を中心として生徒面談を積極的に行った。 ・また、担任との面談とは別に進路指導部面談も実施し、生徒の思いや希望進路に応じて専任スタッフが専門的な観点から個別にアドバイスするとともに、それらの内容を共有し、今後の戦略を練るための学年会(第2学年)を開催した。 ・キャリア・パスポートについては、保護者懇談時に保護者にもその内容等について目を通してもらう等の働きかけを行ったが、課題を克服するだけの実効性を引き出すには至っていない。	C	・生徒との面談内容や進路志望状況について学年と進路指導部が共有し、チームとして戦略的に指導していくための学年会を年2回程度開催する。 ・進路指導部面談を継続し、生徒の自己認識の深化を支援するとともに、生徒がキャリア形成により積極的に取り組めるよう個別に具体的なアドバイスをする。 ・進路啓発企画やキャリア形成支援事業等の意図や意義等について進路指導部と各学年とがあらかじめ共有した上で、進路指導部が主となって、実効性あるキャリア・パスポートの活用を推進する。
	進路実現	【現状】 ・令和2年3月卒業生の1年以内の離職率は15.6%となっている。 →低い水準で推移 ・昨年度は就職試験解禁が1か月遅れたが、12月上旬に就職希望者の内定率100%を達成した。 ・令和3年度公立鳥取環境大学入試に3名が出願し、1名が合格した。 【課題】 ・生徒の主体的な進路情報収集及び開拓の意識が低い状況がある。 ・現状に満足し、より高い目標にチャレンジしない生徒がみられる。	・進路目標達成率100%となっている。 ・第1志望での合格・内定率が90%以上となっている。 ・より高い目標を掲げてそれを実現するために具体的な行動する生徒が増えている。 ・就職1年以内の離職率が県平均以下となっている。 (参考:平成30年度3月卒業者分鳥取県平均離職率16.2%)	・進路志望調査「後」の個別指導を充実させる。 →生徒の主体的な最新進路情報の収集を啓発 →高い目標を掲げ、進路実現に果敢にチャレンジさせる指導の強化 ・各種ガイダンスや事業所説明会等を充実させる。 →狙いと目的の明確化 →社会が求める力を把握し、その力を習得するための方策を具体的に指導	・進路目標達成率は99%(2月9日現在)。このうち第1志望での合格内定率は94%であった。 ・公立鳥取環境大学に2名、有名私立大をはじめとする私立大学に8名が合格。より高い目標を掲げてそれを実現するために具体的に行動した生徒が増えた結果と考えられる。 ・卒業生の1年以内離職率については、令和2年度3月卒業生が18.8%、令和3年度卒業生が6.3%(8月末現在)となっている。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底する観点から、進学・就職ガイダンス等について状況に応じて代替措置を実施した。 ・キャリアアドバイザーの精力的な取組により、新規就職先が開拓されたり、コロナ禍に対応した形態での事業所説明会等を複数回実施できたりした。 ・冬期岩美町公営塾(HOPE)を開催。2年生では小論文対策講座を特設し、生徒満足度も良好であった。	B	・本校における3年間の進路実現ストーリーを再構築する。 ・進路実現に関連する行事や事業の狙いや意義等について、教員間でしっかりと共通認識を持って臨む。 ・企画・行事等の事後指導を充実させる手立てを具体的に講じ、生徒が自らの在り方や今後について主体的に考えられる時間をより多く設ける。 ・短時間(7分前後)の生徒面談を励行し、高い目標や意欲を啓発する。
2 「人間性」の育成	基本的生活習慣とマナーの確立	【成果】 ・頭髪服装検査で再検査となる生徒数は10~20%。ほとんどが軽微な違反であり、各学年で細かく指導をしている結果である。 【課題】 ・令和2年度学校評価アンケート	・頭髪服装指導において再検査を受けなければならない生徒が減少している。 ・挨拶、返事、頭髪服装等の基本的生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が80%以	・日常的な指導と定期的な全体指導を充実させる。 ・指導ノートを有効活用する。 ・生徒・保護者に丁寧に説明するとともに適時な連携による指導を徹底する。 ・「報告・連絡・相談」を徹底し、各	・学校評価アンケート結果(12月)によると、挨拶や返事に対する生徒の意識が高まっている。 ・一方で、授業の開始時間や集会の集合時間等の時間に係り、生徒だけでなく教職員のルーズさも散見される。 ・頭髪服装検査の再検査者数は例年と変わらない。各学年で丁寧に指導した成果と考えられる。 ・歯科検診で齲歯や歯肉の異常、歯垢・歯石の付着等何らかの異常	B	・授業規律、生徒の言葉遣いに関する毅然とした指導、時間管理に係る率先行動を教職員こそ今一度徹底する。 ・受診のお知らせを複数回配布し、受診の徹底を図る。 ・当該生徒を対象に保健指導を個別に行い、啓発を強化する。

		(12 月)の生徒の回答をみると、校則やマナーの厳守、挨拶や返事の意識は高いが、朝の様子を見ると挨拶ができない生徒が増えている。 ・令和2年度歯科検診において虫歯があると診断された52名のうち、令和3年1月時点までに通院し治療を受けた生徒が21名(40.3%)となっている。	上となっている。 ・歯科検診において虫歯があると診断された生徒のうち、60%以上の生徒が通院し、治療を受けている。 ・TEAS の取組を通して、ゴミの分別・減量化やエアコン等使用電力量の削減に意識して取り組むことができる。	学年、授業担当者と緊密に連携する。 ・歯科検診後、当該生徒及び保護者に速やかな受診・治療を促すとともに、保健だより等をとおして啓発する。 ・TEAS 研修会を実施するとともに時宜を得て指導する。	があると診断された生徒は178人中82人(46.1%)であった。 ・このうち受診したまたは治療中である生徒の治療率は約50%。昨年度より治療率は上がっているが、重症であっても未受診者も多いため、学校歯科医と協力し受診を督促してきた。 ・全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて感染症の予防方法について啓発活動を行った。(手洗い励行、マスク常時着用、定期的な換気等) ・保健だよりを毎月発行し、感染症対策に係る最新情報の周知に努めた。		・組織的に生徒の健康管理指導・支援ができるよう、担任、部顧問、養護教諭間の報告・連絡・相談を強化する。
	部活動の振興	【成果】 ・部活動全員加入を原則としており、令和3年度当初時点で未加入者は0名。 【課題】 ・部員確保が困難な部活動がある。	・全生徒が部活動に加入している状態が継続している。 ・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。	・部活動指導計画に基づいた適切な運営をとoshi、技術向上のみならず人間的な成長を支援する。 ・本校の実態及び将来像に即した部活動を精選する。	・年度末時点で部活動未加入者は0名である。 ・部活動を通して、礼儀やマナーが身に付いていると実感している生徒が増えている。 ・7月期と比べると、部活動に真面目に取り組まない生徒が増えている。	B	
	多様な生徒理解及び自己有用感の伸長	【成果】 ・SNSを巡る問題は常に少なからず発生していると認識はしているが、大きなトラブルに発展した事案は発生しなかった。 【課題】 多様な生徒理解のための取組を継続する必要がある。 (参考:令和2年度生活満足度調査結果) ・学校が安心安全な場所と感じている生徒 54% ・学校の日常生活で困っていることがある生徒 11.8% ・学習面で困っていることがある生徒 19.8%	・周囲に配慮した言動ができるようになっている。 ・学校が、生徒にとって安心で安全な場所になっている。 ・生徒一人ひとりが自己実現を目指し、あらゆる教育活動の中で生き生きと活動している。 ・全教職員が、生徒の発達段階に応じて援助・支援している。 → 岩美高版UDを意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合が80%以上となっている。	・集団指導 ・情報モラル講演会等を早期に実施する。 ・全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて、携帯・スマートフォンの扱い方や、SNSの危険性について啓発活動を行っていく。 ・個に応じたサポート ・生徒観察 ・個人面談や個別学習指導 ・保護者や関係機関との連携等 ・教職員向け情報発信 ・生徒の自己理解、他者理解を深め、自己有用感を高めるためのヒント等	・hyper-QU並びに生活満足度アンケートを年2回実施。教員対象のhyper-QU研修会も2回開催し、個々の生徒の状況について情報共有を行い、集団の中で生徒を育てるための方策を学んだ。 ・11月に「自己理解・他者理解」をテーマにした生徒講演会並びに教職員研修会を実施した。 ・各種アンケート結果から侵害感を覚えたり学校生活に悩みを抱えたりしている生徒を抽出し、学年及びクラスと情報共有をした上で、担任や保健人権部による面談を即応的に行った。 ・生活満足度調査の結果(9月)では、「学校が安心安全な場所である」と回答した生徒は61.1%であった。(5月比-3.3%) ・学校評価アンケート(12月)の結果を見ると、岩美高版UDを意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合は78.7%であった。(昨年度比+8.1%) ・携帯・スマートフォンのルールやマナーに係る生徒間の意識格差については、解消にはまだ至っていない。	C	・生徒の困り感を解消するため、日常の観察や情報共有を細やかに行い、引き続き丁寧に個に応じたサポートを継続する。 ・生徒が自己有用感を高められるような声かけやフィードバックを、どの教職員もが励行する。 ・どの生徒もが学習内容を理解できる授業を目指し、引き続き岩美高版UDを意識した指導・支援、教育環境づくりに取り組む。 ・多様な悩みを抱える生徒に対応するため、保護者・外部専門機関との連携をより深め、適切に対応する。
3 地域と連携した学校づくりと魅力化	類型制の発展・充実	【成果】 ・家庭への情報発信については8割程度が十分できているという感触である。 【課題】 ・令和3年度新入学生が定員の5割未満となっている。 ・報道機関への資料提供に努め、生徒の活動を広く発信しているものの本校の教育活動の魅力が効果的に伝わっていない。	・新入生を入学者定員の3分の2以上確保できている。 ・各類型の学習内容の魅力が発信できている。 ・類型の特性を生かし、積極的に地域との交流が図れている。 ・高校が地域の方に誇りを持っている。 ・地域コミュニティの拠点となっている。	・各類型の特性をより活かした教育活動を工夫するとともに、内外への広報を強化する。 ・各類型の学習内容の検証・改善を恒常的に行う。 ・生徒が地域貢献を自分事としてとらえる地域貢献活動の機会を増やす。	・学校HP、県教育委員会ツイッター等での発信を強化するとともに、学校紹介DVDやポスターを作成し、中学校を中心に積極的な広報活動を行った。 ・本校の特色や類型制の魅力等が中学校に見直されつつある。 ・情報発信力の指標は学校内外とも70%以上を示している。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底するため、地域連携事業や地域貢献活動の実施については限定的なものとなった。	B	・委員会を組織し、10年後、20年後を見据えた「岩美高校の在り方」を具体的に検討するとともに、令和5年度学級減に対応する教育課程を編成する。 ・分掌内に広報担当を設け、業務の充実と効率化を図る。
	イワッツミッションの発展・充実	【成果】 ・地域連携・貢献が生徒の育成に効果を上げていると感じている職員の割合は7割程度である。 ・地域と連携した活動に対し、概ね理解が得られ、協力体制ができている。 ・第2学年のイワッツミッションでは、類型制の特徴を生かした取組を行っている。 【課題】 ・「地域に貢献したい」と思う生徒の割合が低下してきている。 ・企画・調整・運営等を行う担当教員の負担が大きくなっている。	地域連携、地域貢献の取組を通して、自らが居住する地域を支える存在であることを理解している生徒を育成する。 →地域と連携した授業の実施件数が延べ50講座以上となっている。 →「地域の行事や活動に参加した延べ人数」(授業として参加するものを除く)が学校全体の生徒数以上となっている。 →地域と連携し、地域に貢献する活動が生徒の人間力の育成に効果が上げていると思う職員の割合が75%以上となっている。 →「地域に貢献したい」と思う生徒の割合が全校の80%以上となっている。	・地域探究型学習(イワッツミッション)を地域連携の核と位置付けて取組を進める。 → スキーム及びフレームの再構築 → 活動内容を充実及びそのための授業時間の確保 → 岩美町役場等と効果的な連携を構築 ・生徒の探究的活動に係る基本的なスキルの向上を図る。	・学校評価アンケート(12月)結果によると、「地域と連携した活動にも取り組み地域に貢献したいと思う」生徒が86.2%。目標を達成した。(前年比+13.8%) ・また、「地域と連携し、地域に貢献する活動が生徒の人間力育成に効果を上げている」と考える保護者が84.8%、職員が84.8%となっており、こちらについても目標を達成した。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、地域と連携した授業の実施件数は伸び悩んだ。 ・他方、岩美町役場や岩美町観光協会等、本校教育活動を応援して下さる地域の方々の変わらぬ協力を得、校内外での活動等について制限がありながらも本年度のイワッツミッションを予定どおり進めることができた。	B	・探究学習の発展・拡充のためのワーキンググループを立ち上げ、これまでのイワッツミッションの成果と課題を基に、令和5年度以降の学習活動の質的向上を実現するプログラムを構築する。 ・総合的な探究の時間等を活用して、探究学習に係る生徒の基本的なスキル向上を目指す指導を計画的に実践する。 ・探究学習及び地域連携を主査する担当を分掌内に設ける。 ・イワッツミッションをとおした生徒の自己変容の程度を確認するために、事前事後のアンケートを実施し、定性変化を追跡する。